

◇本年度の取組重点

- ①どの子にも面白く分かりやすい授業をめざし、基礎基本の習得とそれらを活用して「思考力・判断力・表現力」の育成を図る（特にすべての学習の基盤となる読み・書き・計算力の確実な定着を図る）。
- ②学校生活全般（特に授業の中）にも生徒指導を取り入れることで、いじめ・不登校のない学級・学校を目指す。
- ③インクルーシブ教育システムの理念をふまえ、特別支援教育の推進に向け、職員の校内支援体制の一層の工夫・充実を図る。また、ノーマライゼーションの考えを育むよう努める。
- ④「落合小生活のきまり」「落合小学習のきまり」を学校生活の基に据える。また、児童会が作った「落合小こびっとルール」に全員で積極的に取り組む。
- ⑤読書・辞書利用・家庭学習を包括した学習習慣の育成を図る。特に、明快な「学習の仕方」を身につけさせ、学習に主体的に取り組む力を高める。
- ⑥体育・食育を重視し、生涯を通じて健康な生活を送るために必要な運動習慣、食習慣、衛生習慣を育成する。
- ⑦児童会活動を通して、より良い学校生活づくりのために協力して諸問題を解決していく力を育成する。
- ⑧「地域ふれあい道徳事業」「小笠原流礼法を活かした心の教育推進事業」「いじめ・不登校未然防止推進事業」に積極的に取り組み、場こふさわしい行動・あいさつができるようにする。
- ⑨安全教育・安全管理を計画的に行い、「自分の身は自分で守る」知恵と力を育てる。
- ⑩情報を積極的に発信・受信し、家庭・地域・関係機関との連携を深め、より「開かれた学校づくり」を推進する。

I 全体評価

今年度は、「本年度の取組重点」を意識して評価項目の文言を変更した昨年度の経過を受け、「本年度の取組重点」を意識して評価を行った。自己評価は、【A：そう思う B：ややそう思う C：ややそう思わない D：そう思わない】の4段階評価で実施した。

本年度第1回の自己評価結果は、総合的に見ると多くの質問内容で、肯定的な回答が大勢を占め、総じて評価は高い。

「学校教育目標」	①～④（A・B：90%）
「学校経営・組織」	①～⑥（A・B：90%）
「学習指導・生徒指導」	①～⑥（A・B：98%）
「地域との連携」	①～⑤（A・B：98%）
「学校の特色」	①～③（A・B：94%）となっている。

いずれの項目においても、肯定的な意見が90%を超える結果となったが、どの項目にも、Cの「ややそう思わない」という評価がある。

II 各項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

1 「学校教育目標について」

達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・②③④の項で、C「ややそう思わない」という評価があった。 ①「学校教育目標達成のため、実態に即した学校経営構想《スクールプラン》が作成されている。」については、肯定的評価100%であった。 ②「学校経営構想《スクールプラン》に基づき、全職員が呼吸を合わせ、協力して学校運営が行われている。」について、C評価4名。 ③「学年の教育活動が、学校経営構想《スクールプラン》を踏まえたものになっている。」について、C評価1名。 ④「PDCAのマネジメントサイクルで教育活動が取り組まれている。」について、C評価2名。 <ul style="list-style-type: none"> ・「チーム落合として、一人一人がのり代を広く持ち、助け合っていきたいと思います。」 ・「本校の学校運営重点項目についてさらに意識して同一歩調で進めたい。」という意見があった。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標について協力して達成できることを確認し合いながら進めていく。 具体的には、職員会議等において議題として取り上げられたことをしっかり共通認識し、成果や課題を明らかにし次の実践に結び付けていく。
2 「学校経営・組織について」	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・④については、「A：そう思う B：ややそう思う」という評価になっている。 ・①③⑤⑥の項で、C「ややそう思わない」という評価があった。また、②の項ではD「思わない」という評価があった。 ①「学校経営構想《スクールプラン》に基づき、各校務分掌が機能している。」について、C評価2名。 ②「相談、連絡、報告が遺漏なく確実に行われている。」について、C評価3名、D評価1名。 ③「会議は、能率的・建設的に行われている。」について、C評価2名。 ⑤「事件・事故や災害発生の際に、適切で迅速な対応ができるよう役割分担が明確化されている。」について、C評価1名。 ⑥「校舎内外の施設設備について定期的に点検し、結果を的確に処理（整理・保全）している。」について、C評価1名。 ・「植木の剪定など、気になる所がある。学期に1回くらい見て手を入れてほしい。」「結果云々ではなく、良い結果になるようにお互いが補い合っていきたいと思います。」「幸い児童の大きなけがや事故がないのは、学級指導の成果だと思う。非常時対応等、常に意識しながら迅速な対応ができるように心がけたい。」という意見があった。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営に関することについて「報・連・相」や情報の共有が充分でないことがうかがえる。「報・連・相」の徹底や会議の効率化を進め情報を共有化することにより、2学期以降の教育活動に活かしていく。
3 「学習指導・生徒指導について」	

達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・①②③④⑤については「A：そう思う B：ややそう思う」という評価になっている。 ・⑥「通常学級・特別支援学級の連携をふまえ、特別支援教育推進に向け校内支援体制の一層の充実を図っている。」については、C評価2名。 ・金曜日終礼後に行っている特支会議はどうか？全体で行なっても良いような内容もあると思う。終礼でやっても良いのではないか。 ・学校全体に関わる生徒指導を行う必要があるときは、あらかじめ職員全体に何が起こったから生徒指導をするのか、連絡をしてほしい。 (簡単でも良いので事前に教えてほしい) ・教師である前に、一人の大人として、未熟な子供たちの前に立ち、子どもたちの模範になれているかどうか、私自身も含め、内省する必要があると思う。 ・子供が課題にしっかり向かい、自分の考えを持ち、友達の考えを聞き、深める授業を意識して授業を創っていきたい。1日の中で1度は子供が目を輝かせる授業を仕組みたい。 ・学習時間を確保するため、行事が立て込まないように集約したり、精選したりしていくとよいと思いました。 ・学校のきまり（学習上・生活上）について、きちんと確認し徹底させたい。また、決まったことはきちんと守らせたい。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導や特別支援教育については、特に全体で確認が必要な事項である。それぞれの部会で話し合ったことでも、各担当から全体に報告し、全体で課題を把握し、指導の目標や内容等について全職員で共有し、経過や結果がわかるような統一した指導を重点的にしていく。また、校内で起こったことについては周知徹底していく。 ・金曜日の特支会議は全体に関わることなので、終礼の中で話し合いの議題にしていく。 ・子どもに指導する立場として、常に自覚を持っているようにしたい。子どもへの指導と教師自身のことが一致するようにしたい。
4 「地域との連携について」	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・①、④、⑤において、「A：そう思う B：ややそう思う」という評価になっている。 ・②「保護者や地域の願いに応えるため、アンケート等を通して学校に対する要望等を聞くなど、情報の収集に努めている。」について、C評価1名。 ・③「情報を積極的に発信・受信して家庭・地域・関係機関との連携を深め「開かれた学校づくり」を推進している。」について、C評価1名。 ・「情報発信はよくやられているとは思いますが、保護者はどう思っているのだろうか。」「安全確保のための地域・保護者との連携はこれからの課題の部分もある。」という意見があった。 ・本校は、高学年の総合的な学習や低学年の生活科などで地域の方の力を借りて（地域の方が講師となって）進められている学習が多い。これは、子どもたちの活きた教材となって学習をより深めるきっかけとなっている。地域を知り、ふる里を愛する心情を育成するためにも続けたい。

改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も「学年だより」「学校だより」等により学校からの情報を発信するとともに、保護者や地域の感想や意見をアンケート調査などを通して受信し再発信していく。 ・保護者や地域の意見に丁寧に対応することで、信頼される学校づくりを推進する。 ・落合すももの里応援団を中心とした地域の人材や施設を積極的に活用し、地域の教育力を生かしていく。
5 「学校の特色について」	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・①、②、③とも、「A：そう思う B：ややそう思う」という評価が多かった。 ・①「個に応じ、特性に対応した指導・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた環境づくりに努めている。」について、C評価1名。 ・②「地域の特色を教材化し、郷土を知り、誇りに思えるような指導に努めている。」について、A, B評価のみ。 ・③「地域ふれあい道德事業・小笠原流礼法を活かした心の教育推進事業」に取り組んでいる。」について、C評価1名。 ・平和教育の日（7月末）、福祉教育の日（11月予定）を学校の特色として今年度計画することができた。 ・「特別支援学級に交流学級の子が行きたくなるような明るい環境づくりを心掛けたい。」 「本校は段差や階段も多く、お年寄りや障害者には酷な環境だと思う。大規模改修に向けて意識していきたい。」という意見があった。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育は本校の特色の一つである。特別支援学級においても通常学級においても、個に応じ特性に応じた指導について研修を深め、実践力を身につけていくとともに、学びやすい環境もつくっていく。 ・各学年の総合的な学習において地域を教材として取り上げている。今後も学年を超えて情報交換しながら地域教材を開発し、郷土を誇りに思えるような実践を行っていく。 ・教育を語る会など、今ある活動に工夫を加え、学校・家庭・地域の連携を図る場となるような取組をしていきたい。（地域の講師など）

Ⅲ 児童及び保護者へのアンケートによる評価

1 「学校生活について」(児童アンケート項目：①、⑩、⑪、⑫)

◇「①学校が楽しいか」の項目は、児童は93%、保護者は95%が肯定的であった。

・「あまり楽しくない」「楽しくない」と回答している児童については、原因を探り、個別に丁寧に対応していく。

◇「⑩掃除活動」「⑪きまりや約束」「⑫児童会活動・学校行事」の項目は、95%以上の児童が肯定的な回答である。特に「⑫児童会活動・学校行事」は99.1%の児童が肯定的評価であり、児童会本部、6年生が中心となり取り組んだ成果が表れている。

2 「授業について」(児童アンケート項目：③、⑤)

◇「③授業がわかるか」の項目について、児童は92.2%、保護者は93%が肯定的であった。

・概ね肯定的であるが、「あまりわからない」と回答している児童の声を真剣に受け止めなければならない。校内研究や一人一実践と関連させて「どの子にもわかる授業づくり」をするとともに個別指導等も含め、工夫をしていく。

◇「⑤授業中の発言」の項目については、肯定的な回答は81.1%であった。

・昨年度に比べ、10ポイントほど上昇しているのは、言語活動の充実を取り入れた学び合う授業づくりの成果が表れていることと思われる。しかし、他の項目に比べ低い結果であるので、さらに校内研究における各種学力テストの結果分析や、昨年度までの校内研を踏まえた授業改善を通して成果が上がるように努める必要がある。

3 「友達・教師との関わりについて」(児童アンケート項目：②、④)

◇「②仲良く遊ぶ友達」の項目は、肯定的評価が99%、0.8%が否定的回答であった。

・全体としては、概ね良好な関係が築かれていると考えられるが、これからも児童の行動や様子を観察する中で、適切な対応を迅速に図っていく。

・職員全員で情報交換を行い、気になる児童や出来事には全職員で対応していく。

◇「④困ったとき話ができる先生」の項目は、肯定的な回答が88%となっている。

・担任だけでなくすべての教職員が児童とのふれあいを大事にしていく。気になる児童については、こちらから声をかける。

・児童の「困った」に気付き、対応できるようにきめ細かい児童観察を行い、問題が大きくなる前に全職員で共有し、統一した指導をしていく。

4 「家庭での様子」(児童アンケート項目：⑥、⑦、⑧、⑨)

◇児童アンケート「宿題の他に家で自主勉強をしますか」についての肯定的評価は89.6%(昨年62.9%)、保護者アンケート「基本的な生活習慣や家庭学習の習慣が身についているか」については、保護者の肯定的評価は84%(同76%)であり、どちらの評価も大分向上している。

・家庭での学習については本校にとって最も大きな課題ととらえ、「家庭学習の取組」として、全校的に共通理解のもと取組んできた成果だと思われる。今後も引き続き行っていく。

◇「地域の人にあいさつをしているか」についての肯定的評価は、児童が97.3%、保護者は86%である。

・あいさつについての児童の自己評価の方が保護者より高い。子どもたちがあいさつをしている場面を保護者が見る機会が少ないからかもしれない。これからも、あいさつにも取り組んでいく。

◇スマホ・携帯所持人数の割合は、23%あった。そのうちルールがあるのは約74%、フィルタリングをかけているのは76%であった。

・5、6年生の児童保護者対象に引き続き啓発活動を確実にしていく必要がある。

5 「施設面」について（保護者アンケート項目：8）

◇「本校は、教育活動に適した施設・設備が整っていますか」についての肯定的評価は85%である。

- ・体育館の狭さ、校庭の形状や狭さについてのご意見があった。体育館、校庭とも順次整備され、校舎も改修されるので、大分使いやすく満足のいく施設になっていくと考えられる。

V まとめ

- ・取組重点（落合小学校の状況をふまえた教育活動：特色ある教育）に基づき、全職員の共通理解のもと教育活動を行うことができるように今後とも取り組んでいく。
- ・教職員の自己評価・保護者アンケートともに、全体的に肯定的な評価が多い。A評価が低い項目もあるので、さらなる学校教育活動の充実を目指し取り組んでいきたい。
- ・教職員一人一人が日頃の教育活動を見直していくとともに、それぞれの校務分掌において具体的な改善策を提案し、全職員で共通理解して取り組んでいきたい。
- ・この結果を資料として学校関係者評価委員会に提案し、意見聴取・交換会等を実施することで、更なる学校教育の向上を図っていきたい。

< 2学期からの取組重点・具体的な改善策まとめ >

1 児童アンケート「授業中に発言や質問を言うことをしますか。」を改善する取組の強化

- ①昨年度まで及び本年度の校内研の内容を継続・発展させる形で子どもたちの力を高めていく。
- ②普通の授業の中でも、各クラスの実態に合った話し合いの持ち方を工夫して、発言等ができるようにしていく。
- ③児童とのふれ合いを大切にし、“褒めて伸ばす”指導に心がける。
- ④授業以外の学校生活の場面、廊下ですれ違う時、人に何かを問われた時の応答等、様々な場面で思ったことをしっかり受け答えできる指導をしていく。

2 児童アンケート「困ったときに話（相談）できる先生がいますか。」を改善する取組の強化

- ①教師と子どもの立場にけじめをつけつつも、話しやすい雰囲気づくりや子どもの話に耳を傾けることに心がける。